

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300100		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	〒028-6721 岩手県二戸市似鳥15-1-2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人ひとりの出来る事を把握し、本人に日常生活において出来る役割を持つ事により、ここでの生活に自信と張り合いを持って頂けるように心掛けています。天気に応じて、敷地内を四季折々の風景を楽しみながら散歩する事で、季節を感じ、心身共に健康で過ごして頂けるように配慮している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は二戸市近郊の農村部に位置し、同法人の特養ホームに隣接して立地しており、特養と一緒に避難訓練を実施する等、良く連携が図られている。立地場所が地域集落と離れていることから、地域との交流活動がなかなかできない事を課題としており、広報の配布を行うことなどを検討している。食事においては、利用者が調理に積極的に手伝えることができ、利用者の好みのメニューも提供している。また、コロナ禍にあっても外出支援に取組んでおり、感染予防に注意しながら、近隣を巡るミニドライブを行って利用者は満足感を得ている。避難訓練についても、特養との合同訓練を含め、毎月実施しており、利用者・職員ともに避難行動が身に付いてきていることも高く評価できる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示はしているが、しっかり見る機会は少ないと思ひ、毎月の会議の資料に入れる事で共有し、再確認をしている。	現理念は、事業所開設後に一度見直しているものの、相当の年数を経ている。分かりやすい内容であり、ホール内に掲示するとともに、職員会議においては資料として提示し司会者が読み上げて、職員間での共有化を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍、外出できない事から地域との交流は出来ていない。理容は、定期的に地元の美容院に依頼し訪問してもらっている。	コロナ禍以前には、地元小学校との交流機会などあったが、コロナ禍であることに加え、集落から少し離れて立地していることもあり、現在は殆ど地域との交流は見られないが、利用者が作った雑巾を届けることで新たな交流のきっかけとなるよう計画している。また、隣接の特養ホームの広報には当事業所の行事紹介等もあることから、町内会での回覧等も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流は控えている為、行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、現状報告や事故報告等を行っており、ご意見等を頂き、その結果を会議で報告している。	今年度は5月と9月に集合開催で行ったが、その他は資料送付に止まっている。委員は法人役員や地元の民生委員、家族代表等で構成されておりバランスが良く、開催時には活発な意見交換が行われている。	コロナ禍のために書面開催となることはやむを得ないが、その際には意見や質問を提出しやすいよう返信用封筒の同封や、意見記入様式の工夫が行われるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には必ず出席して頂いている為、運営の報告等が出来ており、ご意見を頂いている。	運営推進会議には資料を送付の上、市役所の担当者が毎回出席いただいております。資料も毎回送付しており、事業所の運営状況については共有されている。介護認定業務や相談事についても市との連携はスムーズに行われ、市主催のケア会議に事業所からも参加しているなど、顔の見える関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に適正化委員会を行う事で、意識し合えるようにしている。身体的な拘束や施錠は行っていないが、スピーチロックに対しては特に注意を払うように心掛けられるようにしている。	職員全員が参加し、3カ月毎に適正化委員会を開催している。委員会では、日常業務においてスピーチロックの有無や言い換えが必要な場面などの話し合いを行っている。また、不適切な言葉がある場合には、その場で注意するようにしている。現在、センサーマットを使用している利用者はいない。夜間のみ防犯上施錠している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修では年2回、アミーチとしては適正化委員会の議題としても挙げて意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設ける事は出来なかったが、必要に応じて学び、支援が出来るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧な説明を心掛け、理解・納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通院時で来苑の際家族と接する機会を大切に、生活の様子を伝えると共に、要望等があれば教えて頂けるようにしている。	家族には毎月、広報と担当職員からの「お便り」を送付しており、通院時に来訪した際にはお話を伺っているが、面会制限の中で利用者の様子を尋ねられることもある。利用者は大半の方が言葉で表現できており、食べたいものとか実家の様子を気にする話が多い。	コロナ禍に伴う面会制限が続いており、家族が利用者の様子を気に掛けることは理解できる。このため、オンライン面会等の機会を活用するなどして、面会のニーズに応えていくよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に、現状の報告をするとともに、意見や要望を伝える事が出来る。	毎月開催する職員会議の場では、職員から様々な意見が出されている。内容としては、水道の蛇口交換などの施設の修繕に関することや、食器の置き場所の改善提案などであり、多くの意見が業務の改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際等を活用して、意見や要望を伝える機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加に対しては積極的である。職員の実力の把握に努め、必要と思われる研修への参加を促してくれる。		

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会とも書面のやり取りのみで、交流の機会もなかった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様が何に困り不安に感じているのか、しっかりうかがえるような雰囲気作りに気を配り、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階からご家族様からある程度の状況をおうかがいするように心掛け、少しでも安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でのなすべき支援は何なのか、ご本人の状態を観察し、出来る支援を探し取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに出来ない所を支え合う、家族の様な関係性を築けるように努める。又、出来る事は続けて頂き、自信を持って過ごして頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を共に支え合えるように、通院や衣類の入れ替えなど、折に触れてご協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出や交流が出来ない為、厳しい状況である。家族の工夫で、通院の際に機会を設けて下さったりしている。	コロナ禍が長期化し、友人等の来訪はなくなっているが、通院時や予防接種の際などに家族が来訪し、併せて実家の近くに立寄ったりしている。理容については地元の理容師が3ヵ月毎に来訪しており、新たな馴染みの関係となっている。	

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いを尊重し合える良好な関係作りに努めている。トラブルは未然に防げるように、関係性の把握を行い、行動・会話等の観察を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、ほとんどが隣接する特養への入所の為、情報をしっかり提供できるように努め、退所後も折をみて会ったり、声を掛けたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にして、本人の意向に添うように努めている。その都度、思いを確認しながら、なるべくやりたい事、得意な事を行って頂けるように心掛けている。	大半の利用者が思いや意向を言葉で話すことが出来ており、職員は利用者本人のやりたい事や得意な事を、適切に把握している。例えば、仕出しに長く勤めた方には食事の配膳に関わってもらうなど、本人のそれまでの生活歴を大切にして自信を持って行うことができるよう支援している。また、掃除をや縫いもの、それぞれの得意なことに取組むことで、利用者は満足感が得られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントした事柄をもとに、会話等から、生活歴の引き出しを行い、家族様からの情報を元に、環境を整え少しでも行動しやすくなるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で、状態や能力の情報を共有し、ご本人の動きや表情に気を配り、観察し何事にもすぐに対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で、ご本人の持つ課題等を話し合い、対応を検討し、実践していくようにしている。	介護計画は、ケアマネが居室担当者の意見等も参考にしながら原案を作成し、職員参加のカンファレンスにおいて正式決定している。計画の見直しは6か月毎を基本としており、その際のモニタリングはケアマネが中心となって行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトや、申し送りノートを活用し、記録や情報の共有に努め、その方にあった介護計画で支援できるように努めている。		

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方にいる場合は、通院対応や金銭管理等の支援を必要に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりがほぼない状況だが、ご本人の出来る事を活用し、施設内での活動において、役割を持つ事で自信を持って頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所してから、かかりつけ医への通院は継続している。通院はご家族様に対応して頂いており、必要に応じての情報提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が大半であり、一戸病院の利用者が多くなっている。多くの利用者は、家族が通院に付き添っており、貴重な外出機会であるとともに家族と過ごせる時間ともなっている。看護業務については、隣接の特養ホームの看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や処置等判断に迷う時や、気になる事がある時は隣接の特養の看護師に相談し、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院とのカンファレンスに出席し、情報交換を行い、良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明の際に、基本的には重度化・終末期の対応は行っていない事を伝えている。ご本人様の状態が重度化する前に、ご家族様には説明と確認を再度行い、住み替えの準備をすべく、連絡調整を早めに行うようにしている。	重度化した場合の対応について、入居時には本人や家族に対して、看取り等の対応はしていない事などを説明し、了解を得ている。隣接して同法人が運営する特養ホーム「サントピア」があり、重度化した場合には住み替えして対応することが多くなっている。	

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成したり、救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練や、法人の合同訓練にも参加している。	ハザードマップで土砂災害危険地域となっており、年1回は隣接の特養ホームと合同の避難訓練を実施しているほか、事業所では毎月、様々な想定で避難訓練を行っている。夜間想定訓練も、薄暮時の暗い時間に実施し実践的な取り組みとなっており、利用者と職員ともにスムーズな避難が出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉かけや対応の難しさを更に感じ、意識していく事の大切さを忘れずに、個々にあった声の掛け方や対応を心掛けている。	利用者には「さん」付けで呼びかけ、丁寧な言葉使いを心掛けている。トイレ誘導時の声掛けでは、ストレートな言葉を避けたり、ジェスチャーで示すなど、プライバシーに配慮している。入浴時の着替えなどでは、周りから見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り選択する場面を設けて、自己決定できるように雰囲気作りや、働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを優先している。入浴や食事は決まった時間内の事ではあるが、出来る限りその方の速度に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るように支援している。衣装ケース内の物であれば、何を着ても良いように工夫して取り組んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに役割りを持って頂き、準備から片付けまで一緒に行っている。又、手作りおやつでは、昔作って食べた物等を作る事で懐かしんだりしている。	利用者の多くが、皮むきや盛り付け、配膳、下膳など、それぞれに得意なことを手伝っている。食事が楽しみとなり、利用者が調理に喜んで参加できるよう、職員は献立を作成し食事づくりの準備をしている。おやつ作りも月2回行っており、伝統食の串もち等が好評を得ている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適宜管理栄養士の助言も得ながら、一人ひとりの状態や好みに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの見守り・声掛け・確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁なく過ごせるように、一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導や促しを行っている。	排泄チェック表をもとに、一人一人の排泄パターンを把握してタイミングよくトイレに誘導している。自立している方は3名であり、リハビリパンツ利用の利用者の中には、暖かい季節を待って自立に向けてトレーニングする予定もあり、自立に向けた支援に継続的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動量に気を配りながら、個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、入浴時には出来る限りゆっくりして頂けるように心掛けている。	週2回午前中の入浴を基本としている。大きめの浴槽であり、一度に2、3人で入浴しているが、気の合う利用者同士が一緒になるよう配慮している。時には歌も歌うように賑やかになる時もある。利用者は入浴を楽しみにしており、異性介護も受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や環境に気を配り、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認出来るようにファイルに綴じてある。服薬支援においては、飲み残しや飲み忘れがないか確認をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や毎日の家事、季節行事等楽しんで参加できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や感染対策をしっかり行ったうえでドライブは行っているが、希望に添った対応は出来ていない。	コロナ禍であるが、感染予防対策を行いながらミニドライブ等の外出支援を行っている。お花見や紅葉見物のほか、奥中山高原などへ出かけ、季節ごとにドライブを楽しみ、利用者は喜んでいる。また、敷地内の散歩もよく行っている。冬季にはイルミネーションの見物も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていて頂いている方もいるが、買い物支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	担当職員から毎月写真入りのお便りの発送は行っている。個別では年賀状やはがきを出す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレの場所を分かりやすく表示したり、季節の装飾を行うなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	ホールには大きなテーブルが設置され、天窓からは明るい日差しが差し込んでおり、暖かい環境の中で利用者がくつろいでいる。庭に面してソファが置かれ、四季の移ろいをゆったりと眺めることができる。壁面には利用者と職員と一緒に製作した干支の装飾画やXmasの飾りつけがなされている。空調はエアコンと床暖房によって適温に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではあるが、好きな場所に座りテレビを観たり、雑誌を見たり、お話をしたりして思い思いの過ごし方をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	馴染みのある家具を持って来り、家族の写真を飾ったり、好きな本を枕元に置いたり、植物を置いたりしている。	各居室にはエアコンかFF式ストーブ、ベッド、クローゼットが備付けられ、利用者は衣装ケースや家族写真、ミニテーブル等を持ち込んでいる。壁には、家族写真や自身の作品、リース飾り等が飾り付けられており、居心地良い空間となっている。利用者の意向に沿って、気づいた時にすぐ掃除ができるよう、廊下にほうきとちりとりが備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除ができる利用者様の居室前に、ほうきとちり取りを準備して置き、好きな時に掃除が出来るようにしている。		